事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月 4日更新

事務事業名	社会教育委員活動事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
	政策	3	教育の健幸				
	施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	米村
	業務分野	35	学習の啓発と参加機会の提供	所属班	生涯学習班	（内線）	1502

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	1	10766	社会教育法　第15条 合志市社会教育委員に関する条例

終了、開始年度	□ 7年度で終了　□ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ　☑単年度繰返（開始年度　18　年度） □期間限定複数年度（　～　年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む)	社会教育委員の活動に対する支援を行う。社会教育委員は旧合志町・西合志町とも昭和26年から、社会教育の振興のため設置された。
【業務の流れ】	社会教育委員会議を行い、市へ生涯学習振興策の提言を行う。また、社会教育の各研修・大会等に参加し、先進的取組みを見聞し、本市の生涯学習の指針を検討する。
【主な予算費目】	報償、旅費、役務費、負担金補助及び交付金

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】社会教育委員の活動支援を行う。【内容】社会教育委員（定数12人以内）の会議を開催し、社会教育に関し助言を行う。【実績】第１回合志市社会教育委員会議を5月26日に開催した。9月26日に第70回熊本県公民館大会・令和7年度熊本県社会教育研究大会合同大会in水俣・芦北に6名が参加した。【成果】通常開催の会議に加え、熊本県社会教育研究大会に参加することができ、知識の向上が図れた。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）

①合志市社会教育委員会議の３回開催　②菊池郡市社会教育連絡協議会への参加　③各種社会教育研究大会等への参加　④熊本県社会教育委員協議会年２回

③予算の主な増減の理由

九州ブロック社会教育研究大会が熊本県で開催されることによる合志市社会教育委員動員に伴う報酬の増

成果指標		(単位)	データ取得方法
⇒ ア	教育委員会からの諮問に対する答申の数	件	
イ			
ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

		単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標	ア	件	0	0	1	0	1	1	1	1
	イ									
	ウ									
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	370	399	481	327	493	493	493	493
	（A）事業費計	千円	370	399	481	327	493	493	493	493

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

通常開催の会議に加え、第55回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会に参加することができた。平成28年度から合志市社会教育委員長が菊池郡市の連絡協議会理事、また令和５年度は熊本県の連絡協議会理事、さらには令和7年度より菊池郡市社会教育連絡協議会の事務局となり、広域での社会教育情報を入手できた。

(4)今後の事業の方向性

□廃止　□縮小　□事業のやり方改善　☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月 4日更新

事務事業名	生涯学習講座運営事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 □「こどもまんなか社会」の構築 □産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	米村
業務分野	35	学習の啓発と参加機会の提供	所属班	生涯学習班	（内線）	1506

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	3	10794	

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 18 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	中央公民館及び御代志市民センター公民館で行なっている主催事業で、受講者の要望等を取り入れながら、各種の趣味講座を実施している。 中央公民館定期講座は、社会教育法第5章公民館でも定義づけされ、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化（心豊かに暮らすこと）を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として昭和46年ごろから事業が実施されている。近年は社会情勢等に伴う対象者（市民）個々のライフスタイルの変化から、求められるニーズも多様化し、講座メニューも変わってきている。 事前に、どのような講座を行なってほしいか希望を調査するための市民アンケートを実施したり、受講後に満足度調査を兼ねてアンケートを実施することにより、受講者のニーズの把握を図っている。 また、生涯学習の人材の育成・活用を図るため、生涯学習人材バンクを設置。
【業務の流れ】	①講座メニューの検討 ②講座内容の決定 ③講師の選定 ③講座案内チラシの作成 ④講座生募集・決定 ⑤講座の開催 ⑥講座終了後の評価 ⑦支払い事務 なお、令和3年度から生涯学習主催講座等の運営業務を包括的に委託している。
【主な予算費目】	報酬（中央公民館長・社会教育指導員分）、消耗品費、備品修繕費、役務費（切手･ハガキ代）、委託料

(1)事務事業の振り返り・計画

① 7年度事務事業の成果・実績

【目的】中央公民館を核とした生涯学習の推進【内容】各種講座の開催、市民講座の開催（委託）、会計年度任用職員として中央公民館長と社会教育指導員を配置した。【実績】市民向け趣味の講座として、絵手紙教室やパソコン教室など数回に分けて行う生涯学習講座と市民の教養を深めるため各月で行う市民講座を株式会社くまもと健康支援研究所に委託し実施した。生涯学習講座が42講座、863人の申込、661人の参加があった。市民講座は11講座を開講し、登録者数582名、延べ1,141人の参加があった。中央公民館長を配置し、主催講座の企画を行った。また、学校教育と社会教育の連携を図った。社会教育指導員を配置し、住民の生涯学習活動への指導を行い、自主活動グループの育成を図った。【成果】開講定員数の予定より上回る講座が多く、4.3倍（親子パン教室）や3.1倍（はじめての簡単ピラティス）など倍率も高く、定員を増やすなどの対応にて開講した。令和5年度から応募方法にQRコード申込を取り入れて3回目となり、申込方法別割合として60%を占め定着してきたと思われる。多文化共生につながる講座では「台湾文化教室」14名、「台湾華語教室」11名、「コミュニケーション英会話」13名、「オンライン英会話教室」12名の参加があった。また、市民講座では台熊友好会の松岡光希さんによる「行ってみたくなる素敵な台湾のお話」に68名が参加した。

② 8年度計画（次年度に計画している主な内容）	③予算の主な増減の理由
ガーデニング、実用書道、料理、着付け、陶芸、英会話、健康づくり等の各教室や、市民講座等を実施予定。また、新しい内容の講座の導入、オンライン講座の実施、受講曜日・時間帯、会場（三つの木の家・栄市民センター）の拡大等を行なうことにより、幅広い年代の市民に受講してもらえるようにする。	人事院勧告による会計年度任用職員報酬の増

成果指標			(単位)	データ取得方法
⇒	ア	受講者数	人	
	イ			
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標		ア	人	1,322	1,616	1,500	1,802	1,600	1,650	1,700	1,700
		イ									
		ウ									
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	9,038	10,488	10,781	11,019	10,781	10,781	10,781	10,781
	（A）事業費計		千円	9,038	10,488	10,781	11,019	10,781	10,781	10,781	10,781

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

定員を超える申し込みがあり、市民の学習ニーズを捉えた講座を開講することができた。
平日の夜間や土曜日に講座を開催し、子育て世代や働き世代が参加しやすい環境を整えた。
多文化理解を進めるための講座を開催することができた。今後は講座の内容を見直し新規の講座も検討する。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 ☑事業のやり方改善 □現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月 4日更新

事務事業名	コミュニティ運営事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	渡辺
	政策	3	教育の健幸				
	施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	米村
	業務分野	36	生涯学習団体の育成	所属班	生涯学習班	（内線）	1505

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	1	10815	合志市社会教育関係団体活動事業補助金交付要綱

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 18 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	各コミュニティ運営委員会への補助金の交付、各コミュニティ指導員の任用、配置、報酬支払を行う。 各コミュニティ運営委員会においては、市民センターを活用した講座の運営と学習発表の開催、子ども体験教室の実施、夏祭りやどんどや等地域イベントを開催している。 現在のコミュニティ 中央コミュニティ（木原野、大池、御代志、若原、南原住宅、芝原、ユトリック団地、東大池） 合生コミュニティ（立割、生坪、弘生、江良、高木、小合志、辻　久保、小池、合生住宅） 黒石コミュニティ（黒石、新開、黒石団地、九州沖縄農研、再春荘、恵楓園、東須屋、陽光台、みずき台） 須屋コミュニティ（須屋、上須屋、堀川、榎ノ本、西須屋団地、県営住宅、南陽、南須屋） 野々島コミュニティ（北、本村、辻　、東、湯之端、外園、中尾、城、上生、黒松、灰塚、くぬぎヶ丘団地） 栄コミュニティ（平島、鹿水、中林、後川辺、栄温泉団地、新栄温泉団地、山下団地、栄住宅）
【業務の流れ】	①補助金交付（交付申請書受理⇒交付決定⇒概算払い申請受理⇒補助金交付⇒実績報告受理⇒精算処理） ②コミュニティ指導員任用、配置、報酬支払
【主な予算費目】	報酬、時間外手当、負担金補助及び交付金

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】市民センターを核とした生涯学習の推進と地域づくり【内容】①各コミュニティ運営委員会（中央・黒石・野々島・合生・須屋・栄）へ補助金交付　②コミュニティ指導員の配置、指導員はコミュニティ活動の企画立案、各講座の指導を行った。【実績】中央コミュニティ運営委員会、黒石コミュニティ運営委員会、野々島コミュニテイ運営委員会、合生地区地域づくり運営委員会、須屋コミュニティ運営委員会、栄コミュニティ運営委員会へ地区公民館等活動助成金を交付した。会計年度任用職員としてコミュニティ指導員を6つの市民センター配置した。【成果】地域住民（コミュニティ運営委員会）と連携し、各市民センターにおける講座の運営やイベントの開催を通じ、市民センターを核とした地域づくりと生涯学習を推進することができた。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）	③予算の主な増減の理由
①各コミュニティ運営委員会（中央・黒石・野々島・合生・須屋・栄）へ補助金交付 ②コミュニティ指導員の配置、指導員はコミュニティ活動の企画立案、各講座の指導を行う。	人事院勧告による会計年度任用職員報酬の増

成果指標			（単位）	データ取得方法
⇒	ア	生涯学習を行っている人の割合	%	
	イ			
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標		ア	%	45	42.3	45	34	45	45	45	45
		イ									
		ウ									
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	13,391	16,730	16,709	17,444	16,709	16,709	16,709	16,709
	（A）事業費計		千円	13,391	16,730	16,709	17,444	16,709	16,709	16,709	16,709

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

コミュニティの活動が計画通り行われ、地域住民の生涯学習の推進につながった。コミュニティー指導員の研修なども進めよりコミュニティーの活動が充実できるように検討していく。

(4)今後の事業の方向性

□廃止　□縮小　□事業のやり方改善　☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月 9日更新

事務事業名	自治公民館支援事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 □「こどもまんなか社会」の構築 □産業の共生による市経済の持続的発展			
総合計画体系 政策	3 教育の健幸	所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
総合計画体系 施策	10 生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	中村
総合計画体系 業務分野	37 生涯学習施設（環境）の整備	所属班	生涯学習班	（内線）	1500

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	3	10817	合志市補助金等交付規則、合志市社会教育関係団体活動事業補助金交付要綱、合志市公民館長設置規則

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 18 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	生涯学習活動の振興を図るための助成制度。年度初めに公民館長会議を開催し、制度説明を行う。 ●地区公民館活動等補助金：地区公民館活動に必要な経費への補助。 ●地区公民館建設費補助金：地区公民館の新築、改築及び改修に必要な経費への補助。 ●地区公民館備品購入費補助金：公民館で使用する備品の購入費に対する補助。 ●モデル公民館事業補助金：地域ぐるみの活発な生涯学習活動を目的とした、2年間のモデル事業（地区公民館活動）における経費への補助。助成を受けた区は、事業完了後に次年度の公民館長会議にて実践発表を行う。 ●地区公民館建設用地の貸付：地区公民館建設用地購入の要望を行った区に対し、市が建設用地を購入し、貸付を行う。
【業務の流れ】	①（補助交付年度の前年度予算編成時）建設・改修、備品購入等の補助金要望調査を実施する。 ②各区長、公民館長より補助金交付申請書を受理する。 ③内容審査後、適正であれば交付決定通知書を交付する。 ④事業完了後、事業実績報告書を受理。審査後確定となれば確定通知書を送付する。 ⑤請求を受け、補助金を交付する。
【主な予算費目】	役務費（通信運搬費）、負担金補助及び交付金

(1)事務事業の振り返り・計画

① 7年度事務事業の成果・実績

【目的】生涯学習活動を図るための助成制度。【内容】地区公民館活動等の補助金交付。【実績】旧合志地区の36地区公民館に対し、17地区に地区公民館活動等補助金を交付した。3地区に地区公民館建設費（改修・修繕）補助金を交付した。12地区に地区公民館備品購入費補助金を交付した。【成果】身近な交流拠点の場である公民館を活用し、地域づくりを行うため活動支援が行えた。

② 8年度計画（次年度に計画している主な内容）

活動助成金については前年度と同様。
建設費・備品・モデル公民館・建設用地貸付については補助金要望調査を実施しており、内容審査のうえ予算計上を行う。

③予算の主な増減の理由

地区公民館建設費補助金の申請件数の増加による補助金の増

成果指標		(単位)	データ取得方法
⇒ ア	補助金交付合計額	千円	
⇒ イ			
⇒ ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

		単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標	ア	千円	4,673	2,052	3,500	3,213	3,838	3,838	3,838	3,838
	イ									
	ウ									
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	4,691	2,069	3,604	3,237	3,861	3,861	3,861	3,861
	（A）事業費計	千円	4,691	2,069	3,604	3,237	3,861	3,861	3,861	3,861

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

身近な交流拠点の場である公民館を活用し、地域づくりを行うため活動支援が行えた。特に活動等補助金の交付に関しては旧合志地区の36地区に対して17地区に交付ができた。今後も引き続き、地域の公民館で生涯学習の推進が図れる環境づくりを行っていく。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート(令和 7年度実績と令和 8年度計画)

令和 8年 9月11日更新

事務事業名	三つの木の家社会教育事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 ☑「こどもまんなか社会」の構築 □産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	士野	
業務分野	37	生涯学習施設(環境)の整備	所属班	生涯学習班	(内線)	1504	

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	終了、開始年度	事業期間
	一般	10	5	5	10833	三つの木の家条例	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	□単年度のみ ☑単年度繰返 (開始年度 18 年度) □期間限定複数年度 (～ 年度)

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む)	三つの木の家の計画的な維持管理に努めることで、市民に対して学習活動に専念できる環境と、学びの場への参加機会を提供する。また、平成11年度から社会教育施設として再スタートし、学校だけでなく住民団体の活動にも使用できるようになった。 ※平成30年度より「三つの木の家社会教育事業」と「三つの木の家維持管理事業」を統合。
【業務の流れ】	①管理人対応(配置、報酬支払い、利用者受け入れ対応、予約受付) ②屋内管理(光熱水費支払い、施設管理用備品契約、機械警備契約、定期清掃、施設修繕等) ③屋外管理(樹木管理、芝生広場管理、施設修繕等、ボイラー清掃点検委託)
【主な予算費目】	報酬(指導員及び管理員)、職員手当(日直手当、賃金)需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料

(1)事務事業の振り返り・計画

① 7年度事務事業の成果・実績

【目的】健全な児童・生徒の育成を図るとともに、市民の生涯学習の振興に資する。【内容】三つの木の家の計画的な維持管理に努めることで、市民に対して学習活動に専念できる環境と、学びの場への参加機会を提供した。【実績】施設の維持管理、社会教育指導、自主事業実行委員会への負担金交付を行った。10月13日～15日に宿泊体験研修(対象:市内小学生・参加者:24名)を実施した。「こうし」こども塾(対象:市内小学生・参加者:25名)は、6月から3月にかけて全10回実施した。子ども体験学習は、6月14日にハーバリウム作り体験教室(対象:市内小学校1年生～中学校3年生・参加者:34名)、7月12日に食品サンプル作り体験教室(対象:市内小学校1年生～中学校3年生・参加者:56名)、8月30日に親子で木工体験教室(市内小学校1年～6年生・参加者:17名)、9月27日にボディペインティング体験(対象:市内在住2～8歳・参加者30名)を実施した。濡れ縁撤去工事を行った。【成果】年3回の自主事業実行委員会および市民を対象とした各種自主事業の開催や本施設の維持管理業務を通して、学習活動に専念できる環境と学びの場を提供することができた。

② 8年度計画(次年度に計画している主な内容)

三つの木の家自主事業実行委員会への負担金交付、施設の維持管理(施設修繕・樹木管理・清掃・濡縁撤去工事等)、利用者受け入れ対応、各自主事業の実施

③予算の主な増減の理由

樹木伐採による委託料の増

成果指標		(単位)	データ取得方法
⇒ ア	施設利用者数	人	
イ			
ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

		単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標	ア	人	4,175	4,653	5,000	5,190	5,000	5,000	5,000	5,000
	イ									
	ウ									
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円							221,119	
	その他	千円	249	234	227	223	227	227	227	227
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	7,068	9,338	9,511	9,209	14,535	12,135	32,647	9,335
	(A) 事業費計	千円	7,317	9,572	9,738	9,432	14,762	12,362	253,993	9,562

(3)評価の総括(成果向上の余地・事業費削減の余地)

三つの木の家のパンフレットを作成・配付することにより、施設の周知および認知度の向上を図るとともに、市民の利用機会を創出し、施設の利用促進を図る必要がある。
築30年を超え、施設の老朽化が進んでおり、修繕・改修計画を立て、今後適切な施設維持を行う必要がある。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

事務事業マネジメントシート(令和 7年度実績と令和 8年度計画)

令和 8年 9月 9日更新

事務事業名	市民センター維持管理事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	渡辺
	政策	3	教育の健幸				
	施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	清原
	業務分野	37	生涯学習施設(環境)の整備	所属班	生涯学習班	(内線)	1506

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	3	10827	合志市民センター条例

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返 (開始年度 18 年度) □期間限定複数年度 (～ 年度)

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む)	施設利用者が各市民センター(御代志・黒石・須屋・泉ヶ丘・野々島・栄)を快適に利用できるように維持管理を行う。施設の多くは、経年劣化が進んでいる。ついては、中長期計画に基づき改修を行う必要がある。 維持管理・運営について指定管理制度等も検討していく。 平成30年3月　野々島市民センター建築をおこなった。 令和2年2月　黒石市民センター建築をおこなった。 令和2年度～　みどり館を高齢者支援課より生涯学習課に移管した。 令和2年度　　旧黒石市民センターを解体。　解体後は体育館をスポーツ振興班へ移管。
【業務の流れ】	①消耗品補給、蛍光灯・電灯交換、輪転機インク、マスター、施設管理用消耗品補充 ②保守管理(コピー機、消防用設備、電気設備、エレベーター、清掃業務、機械警備、樹木管理、除草業務、自動ドア、空調、自家発電、貯水槽、防火対象物、リース等) ③施設の修繕・工事 ④避難所用品の備蓄 ⑤管理員・受付事務員等の配置
【主な予算費目】	報酬、職員手当等、旅費、需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費、印刷製本費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、備品購入費

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】市民の連携と交流を図り、明るく住みよい近隣社会の形成を目的として、合志市市民センターを設置する。【内容】施設利用者が市民センターを快適に利用できるよう維持管理を行う。【実績】各市民センターに会計年度任用職員の配置、空調機械保守点検業務委託、清掃管理業務委託、施設予約端末保守業務委託、自家発電設備保守点検委託、電気工作物保守点検業務委託、建築設備定期検査業務委託、自動ドア保守点検業務委託、貯水槽保守点検業務委託、機械警備業務委託、昇降機保守点検業務委託、来客用マットリース、券売機リース、各施設修繕を行った。御代志市民センター講堂他長寿命化改良工事実施設計業務委託、御代志市民センター講堂特定天井改修工事を行った。

②8年度計画(次年度に計画している主な内容)

各市民センターに会計年度任用職員の配置、空調機械保守点検業務委託、清掃管理業務委託、施設予約端末保守業務委託、自家発電設備保守点検委託、電気工作物保守点検業務委託、建築設備定期検査業務委託、自動ドア保守点検業務委託、貯水槽保守点検業務委託、機械警備業務委託、昇降機保守点検業務委託、来客用マットリース、券売機リース、各施設修繕、御代志市民センター講堂他長寿命化改良工事実施設計業務委託及び工事監理業務委託、当該工事費

③予算の主な増減の理由

御代志市民センター講堂他長寿命化改良工事による工事請負費の増

成果指標		(単位)	データ取得方法
⇒ ア	利用団体数	団体	
イ			
ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

		単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標	ア	団体	19,272	17,087	17,000	17,615	17,000	17,000	17,000	17,000
	イ									
	ウ									
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円	87,800	69,600		7,400	596,670	456,597	375,870	
	その他	千円	10,218	10,473	11,637	10,376	379	379	379	379
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	99,614	96,834	100,244	92,642	175,999	161,231	152,721	113,095
	(A) 事業費計	千円	197,632	176,907	111,881	110,418	773,048	618,207	528,970	113,474

(3)評価の総括(成果向上の余地・事業費削減の余地)

施設の長寿命化を継続的に進めている。長寿命化未実施の施設は設備の経年劣化が進んでおり、計画的な設備更新を行う必要がある。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年10月21日更新

事務事業名	総合センター維持管理事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	清原
業務分野	37	生涯学習施設（環境）の整備	所属班	生涯学習班	（内線）	1506

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	2	10837	

終了、開始年度	□ 7年度で終了　□ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ　☑単年度繰返（開始年度 9 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	総合センター「ヴィーブル」の維持管理事業。平成7年11月に総合センターが開館し、旧合志町における生涯学習施設の一大拠点となり、施設の維持管理が必要になった。生涯学習、生涯スポーツの一大拠点として、多くの市民に利用され、あるいは全国大会規模の屋内スポーツや県内屈指の文化ホールを利用した催し物など、スポーツや文化芸術面での振興に果たした役割は大きい。一方で建築後30年を経過しており、設備の経年劣化が進んでいるため、計画的に施設の補修・機器の更新を行う必要がある。
【業務の流れ】	総合センターの維持管理に係る各種の契約事務、各所の工事営繕、事務用機器の賃貸借、備品や消耗品、燃料の補給などを行い、市民の要望に応じた利用しやすい施設環境を整える。
【主な予算費目】	需用費（消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費）、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、備品購入費

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】市民の連携と交流を図り、明るく住みよい近隣社会の形成を目的として、合志市総合センターを設置する。【内容】施設利用者が総合センターを快適に利用できるよう維持管理を行う。【実績】総合センターに消防用設備保守点検業務委託、電気工作物保守点検業務委託、昇降機保守点検業務委託、清掃管理業務委託、樹木管理業務委託、舞台吊物装置保守点検業務委託、舞台照明設備保守点検業務委託、舞台音響設備保守点検業務委託、警備業務委託、自動ドア保守点検業務委託、空調機械保守点検業務委託、文化会館運営管理業務委託、建築設備定期検査業務委託、特殊建築物検査業務委託、来客用マットリース、券売機リース、施設修繕を行った。社会教育施設のオンライン予約システムを導入した。総合センター自家用電気工作物等改修工事監理業務委託、総合センター自家用電気工作物等改修工事を行った。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）

空調機械保守点検業務委託、清掃管理業務委託、施設予約端末保守業務委託、券売機保守業務委託、電気工作物保守点検業務委託、建築設備定期検査業務委託、特殊建築物検査業務委託、昇降機保守点検業務、自動ドア保守点検業務委託、警備業務委託、文化会館運営管理業務委託、舞台吊物装置保守点検業務委託、舞台照明設備保守点検業務委託、舞台音響設備保守点検業務委託、来客用マットリース、券売機リース

③予算の主な増減の理由

総合センター電気工作物改修工事による工事請負費の増

成果指標		（単位）	データ取得方法
⇒ ア	利用団体数	団体	
イ			
ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

		単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標	ア	団体	9,693	9,027	7,000	10,485	9,000	9,000	9,000	9,000
	イ									
	ウ									
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円			6,195					
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円	460,100	2,200	95,200	77,100	95,200			
	その他	千円	12,699	17,210	16,867	15,502	16,641	16,641	16,641	16,641
	繰入金	千円		661						
	一般財源	千円	138,923	90,300	111,257	110,264	155,986	93,543	93,534	93,543
	（A）事業費計	千円	611,722	110,371	229,519	202,866	267,827	110,184	110,175	110,184

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

電灯のLED化やトイレの洋式化など、施設設備の改修が完了している。しかし、一部の空調は設置後17年が経過し経年劣化が進んでおり、計画的な施設整備を行っていく必要がある。

(4)今後の事業の方向性

□廃止　□縮小　□事業のやり方改善　☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月10日更新

事務事業名	図書館施設維持管理事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	士野	
業務分野	37	生涯学習施設（環境）の整備	所属班	生涯学習班	（内線）	1504	

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	8	10858	

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 18 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	・図書館システム関係：図書館電算システムや利用者向けインターネット端末の維持管理。現在の図書館運営において電算システムは欠かせないものであり、開館時より運用している。合併に伴い、両町のシステムを統合した。蔵書の情報をインターネット上で公開しており、蔵書検索が可能である。合併時に導入した図書館システムの更新を平成25年3月に行い、サーバー方式からクラウド方式へ変更した。また、平成30年3月にシステム及び機器の更新を実施し、学校図書館システムと切り離された。 ・その他：図書館施設の維持管理に努め、必要な修繕・工事、備品購入等を行う。 ※令和5年度より「図書館電算システム維持管理事業」と「図書館施設維持管理事業」を統合
【業務の流れ】	・図書館システム関係：システム会社と図書館（指定管理）との調整。システム更新業務（協議・契約等） ・その他：仕様書作成→競争入札の実施→完了検査
【主な予算費目】	修繕費、施設修繕費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、備品購入費

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】円滑な図書館運営を行うシステムの安定稼働を図る。より多くの利用者に安全・快適に利用してもらう。【内容】図書館施設の維持管理に努め、必要な修繕・工事を行う。【実績】西合志図書館高圧開閉器取替工事を実施した。【成果】修繕工事などを行い、円滑な図書館運営を行うシステムの安定稼働が図れた。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）

西合志図書館高圧開閉器取替工事、西合志図書館消防設備改修工事を行う。

③予算の主な増減の理由

西合志図書館引込電力ケーブル更新工事による工事請負費の増

成果指標			(単位)	データ取得方法
⇒	ア	施設維持管理上不具合・トラブル件数	件	
	イ			
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標		ア	件	0	0	0	0	0	0	0	0
		イ									
		ウ									
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		1,183						
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円	3,000	71,500						546,577
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	5,409	17,795	10,459	10,510	9,400	9,400	9,400	67,021
	(A) 事業費計		千円	8,409	90,478	10,459	10,510	9,400	9,400	9,400	613,598

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

西合志図書館における高圧開閉器の取替工事を実施したことにより、電気設備の老朽化に伴う停電事故や火災のリスクを未然に防止し、来館者の安全確保および施設の安定的な運営に寄与した。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年10月22日更新

事務事業名	アニメ・マンガを活かしたまちづくり事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会	課長名	渡辺
	政策	3	教育の健幸				
	施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	士野
	業務分野	35	学習の啓発と参加機会の提供	所属班	生涯学習班	（内線）	1504

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	7	11544	

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 23 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	・指定管理者との年度協定の締結 ・市に賑わいをもたらすことや市外へＰＲを行うことを目的に、アニメ・マンガ・映像等を活用したイベントの実施。 ・市に縁のある漫画家やアニメクリエイター、更にはアニメ・マンガを活かしたまちづくりを行っている団体の協力を得て、市の資源を活かした地域ＣＭ制作やマンガ単行本等を作成し、市内・市外にＰＲを行う。 ・コンテンツ産業の誘致に向けた関係団体との協議。
【業務の流れ】	・市に賑わいをもたらす施策として、本市に縁がある漫画家、映像プロデューサーと熊本県内で活躍されているＮＰＯ団体、更には専門性がある大学教授を招きシンポジウムを開催する。 ・指定管理者のモニタリング
【主な予算費目】	・報酬（地域おこし協力隊） ・職員手当等（地域おこし協力隊） ・旅費（地域おこし協力隊） ・負担金補助及び交付金（地域おこし協力隊）

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】地域おこし協力隊により賑わいのあるまちづくりに取り組むため。【内容】市に賑わいをもたらすことや市外へＰＲを行うことを目的に、アニメ・マンガ・映像等を活用したイベントの実施。市に縁のある漫画家やアニメクリエイター、更にはアニメ・マンガを活かしたまちづくりを行っている団体の協力を得て、市の資源を活かした地域CM制作やマンガ単行本等を作成し、市内・市外にPRを行う。コンテンツ産業の誘致に向けた関係団体との協議。地域おこし協力隊を任用し補助金を交付した。【実績】合志マンガミュージアムでは、開館記念日に来場者に風船を無料配布を行った。10月19日に図書館と連携して秋の本祭りを行った。3月22日にYO-NIN-MANフェスタ2026（忍者編）の企画展を開催した。その他イベントは、2回実施した。第7回妖怪・忍者イラストコンテストを行い、2月には授賞式も行った。ワークショップは「オリジナル下敷きをつくろう！」など27講座を開催した。特別企画展展示「これが漫画！展」など5回実施した。マンガ配本事業やクラブ活動支援など、小中学校とも連携をした。駐輪場新設工事とLED照明設備工事 を行った。【成果】様々なイベント等を通じ、賑わいのあるまちづくりに寄与した。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）

・指定管理者（こうし未来研究所）との年度協定の締結
・地域おこし協力隊の任用（継続）および補助金の交付
・指定管理者のモニタリング
・合志マンガミュージアムLED照明設置工事
・合志マンガミュージアム駐輪場新設工事

③予算の主な増減の理由

マンガミュージアムＬＥＤ照明設備工事完了に伴う工事請負費の減

成果指標			（単位）	データ取得方法
⇒	ア	合志マンガミュージアム入場者数	人	
⇒	イ	合志マンガミュージアム入場料売上	円	
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標		ア	人	24,036	26,060	10,000	24,654	25,000	25,000	25,000	25,000
		イ	円	2,079,100	2,403,600	1,000,000	2,333,400	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
		ウ									
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								219,842
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	4,317	8,584	8,162	7,901	4,884	4,884	4,884	28,062
	（A）事業費計		千円	4,317	8,584	8,162	7,901	4,884	4,884	4,884	247,904

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

開館記念日に際し、来館者への記念品（風船）の配付や各種体験型イベントを実施したことで、多世代にわたる市民の交流と施設の活性化を図った。こうした取り組みが、地域の賑わい創出および魅力あるまちづくりの推進に寄与した。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月10日更新

事務事業名	図書館管理運営委託事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	10	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	士野	
業務分野	37	生涯学習施設（環境）の整備	所属班	生涯学習班	（内線）	1504	

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	8	11716	図書館法

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 29 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】（開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	行政改革大綱や集中改革プランにより平成29年度より合志市立図書館業務に指定管理者制度を導入。平成29年度～平成31年度の3箇年、株式会社こうし未来研究所に業務委託を行った。 また、新たに令和2年度から令和6年度の5箇年、株式会社こうし未来研究所に合志市立図書館・合志マンガミュージアムの管理運営委託を行った。
【業務の流れ】	年度協定・モニタリング・指定管理料の支払いなど
【主な予算費目】	指定管理委託料

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】合志市立図書館及び合志マンガミュージアムをより効果的・効率的に管理する。【内容】図書館・マンガミュージアムの管理運営を通じて市民及び利用者にサービスを提供する。【実績】指定管理者（こうし未来研究所）との年度協定の締結を行った。指定管理委託料の支出（四半期ごと）を行った。指定管理者のモニタリング（四半期ごと）を行った。指定管理者および図書館・マンガミュージアム合同の２館会議（毎月）を行った。図書館が西合志、ヴィーブル、泉ヶ丘図書館併せて来館者数が延べ178,136人、マンガミュージアムの入館者が延べ24,654人であった。【成果】図書館・マンガミュージアムの指定管理業務を通じ、市民及び利用者にサービスを提供できた。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）

引き続き、図書館とマンガミュージアムは指定管理者制度を活用し、施設の管理運営を行う。

③予算の主な増減の理由

成果指標			（単位）	データ取得方法
⇒	ア	年間の貸出冊数（移動図書・雑誌・視聴覚含む）	冊	
	イ			
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標		ア	冊	468,371	448,550	560,000	454,095	560,000	560,000	560,000	560,000
		イ									
		ウ									
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円					72	72	72	72
		地方債	千円								
		その他	千円	4,470	2,970	111	2,950	39	39	39	39
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	118,530	120,030	152,889	150,050	152,889	152,889	152,889	152,889
	（A）事業費計		千円	123,000	123,000	153,000	153,000	153,000	153,000	153,000	153,000

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

指定管理者との年度協定を適切に締結したことで、市民および利用者に対し質の高い安定的なサービスを提供することが可能となった。また、指定管理者の創意工夫による事業展開により、施設魅力の向上および来館者数の増加に寄与した。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート(令和 7年度実績と令和 8年度計画)

令和 8年 9月 9日更新

事務事業名	文化芸術自主事業・文化協会活動支援事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	10	生涯学習の推進		所属課	生涯学習課	担当者名	古閑
業務分野	36	生涯学習団体の育成		所属班	生涯学習班	(内線)	1502

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	6	11517	

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返 (開始年度 18 年度) □期間限定複数年度 (～ 年度)

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む)	文化芸術自主事業実行委員会を組織し、年間の事業の企画立案・事業の実施を行なう。平成7年11月に総合センターのオープンに伴い、文化会館の活用と文化芸術の振興を目的に自主事業が始まり、実績は十分であるが、ジャンルによって入場率にばらつきが見られる。
【業務の流れ】	自主事業実行委員会の組織、年３回程度の実行委員会会議の開催、企画・立案、事業の実施、会計監査、事業実績報告書の作成・検証。
【主な予算費目】	職員手当、負担金補助及び交付金

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】市民に芸術文化を鑑賞する機会や参加する場を提供するとともに、芸術文化に対する理解を深め、感性を高めてもらう【内容】文化芸術自主事業実行委員会への負担金支給および事務局として、年3回程度の実行委員会議の開催、自主事業の企画を担う。【実績】文化芸術開催のため実行委員会を組織し企画運営を行った。令和7年9月1日から令和8年2月28日までの間に、「歴史資料館特別展　原田茂の遺したもの展」を開催した。(来館者数は1，103人)9月24日に、宝くじ文化公演「水曜日のカンパネラプレミアムライブ2025」を開催した。(来場者数は560人)10月26日に、東京なないろアンサンブル公演を開催した。(来場者数は253人)12月13日に、劇団テアトル・エコーによる「11ぴきのネコ公演」を開催した。(来場者数は405人)11月2日に、ヴィーブル合唱団公演を開催した。(来場者数は578人)11月8日に、NHKおかあさんといっしょ宅配便「ファンターネ！小劇場」を開催した。(来場者数は2ステージで776人)11月30日に、「朗読フェスティバルin合志」&「朗読コンテスト受賞者朗読会」を開催した。(来場者数は250人)1月18日に、第13回バンドフェスティバルを開催した。(来場者は約450人)3月7日、8日に、ヴィーブル子ども劇団公演を開催した。(来場者は初日557人、2日目573人)

②8年度計画(次年度に計画している主な内容)	③予算の主な増減の理由
メイン事業、ふれあいコンサート、バンドフェスティバル、ヴィーブル子ども劇団公演を予定。	人件費高騰に伴う会場設営委託料の増

成果指標			(単位)	データ取得方法
⇒	ア	興味を持った人数(入場券購入者数)	人	
	イ			
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標		ア	人	796	1,880	1,143	2,348	2,000	2,000	2,000	2,000
		イ									
		ウ									
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	8,003	8,063	8,348	8,154	8,348	8,348	8,348	8,348
	(A) 事業費計		千円	8,003	8,063	8,348	8,154	8,348	8,348	8,348	8,348

(3)評価の総括(成果向上の余地・事業費削減の余地)

市民の文化意識の高揚を図るために各種補助事業の活用や、地元で活躍する団体を主とした公演など経費負担が少ない事業の実施を図る。主に公演場所となる文化会館のキャパシティが約600名なので、事業内容の検討もする必要がある。ジャンルによって市民の興味に偏りが見受けられるため、ニーズを把握していくことが重要である。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 ☑事業のやり方改善 □現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)